

2010 愛知県スキー連盟 B 級検定員検定

1. 下記は検定の「評価の観点の理解」について述べたものです。() に入る適当な語句を語群より選び記しなさい。

公認スキー検定員を受検するにあたっては、「技術の評価する」というのは、検定の場面だけでなく、指導の現場でも評価は大切なもので、学習過程の段階や学習の仕組みは指導者に欠かせない知識になります。スキー指導者は、スキー技術に優れているだけではなく「より高い(①)」に加え「より深い(②)」、「より幅広い(③)と豊かな(④)」をそなえていること、そして正しい(⑤)の提供者としての役割が求められます。

学習対象者に対する技術評価が、その時々には的確に行われることで、対象者の(⑥)が喚起されます。そして指導者としては、指導と評価の(⑦)が図られる日頃の(⑧)が重要になります。

技術評価の観点をとらえていくと、「スキー技術の構造とスキー運動の原因」を確認することが大切です。

指導課程においては、指導者は常に学習者の動きを観察し、学習の成果を確認することが大切です。

その観点には、「運動の質的な内容の変化」と「運動の形態的な変化」があります。

(1) 質的な変化

運動の質は、三つの要素でとらえられる。

① 身体の動きの(⑨) <スペーシング>

運動に適したバランスの良いポジション<フォーム>を表現しているかどうか。

② 身体の動きの(⑩) <タイミング>

動きの構成がタイミングよく行われているかどうか。

③ (⑪) <グレイディング>

力の強弱リズムが滑らかに表現されているどうか。

(2) 運動の形

スタンスと(⑫)の取り方に主な観点がおかれます。

以上の内容から、検定の着眼点としては「運動の(⑬)」、「運動の(⑭)」、そして全体的な観点として、「スピードと弧のコントロールを中心にした状況への(⑮)」を設定しています。

・学習意欲	・時間的調節	・力の調節	・人間性	・構成
・知識	・質的内容	・指導実践	・一体化	・対応能力
・指導技術	・教養	・スキーポジション	・空間的調節	・情報

2. ジュニア・テストの実技種目と斜面設定について、下記の表の()に適当な語句を記しなさい。

テスト区分	実技種目	斜面設定
1 級	パラレルターン大まわり	中急斜面・整地
	(①)	(②)
	フリー滑降	中級コース
2 級	大回りターンが連続してできる	(③)
	小回りターンが連続してできる	中～中急斜面・整地
3 級	大回りターンが連続してできる	中斜面・整地
4 級	(④)	(⑤)
5 級	(⑥)	緩斜面・整地
6 級	プルークで大回りができる	緩斜面・整地

2010 愛知県スキー連盟 B 級検定員検定

3. ステージⅡ・公認スキー準指導員検定の実技種目と斜面設定について、下記の表の()に適切な語句を記しなさい。

単位区分	実技種目	斜面設定
A単位	(①)	急斜面・整地
	(②)	(③)
B単位	パラレルターン 大回り	急斜面・ナチュラル
	パラレルターン 小回り	急斜面・ナチュラル
C単位	(④)	(⑤)
	(⑥)	(⑦)

4. プライズテスト及び級別テストの実技種目と斜面設定について、下記の表の()に適切な語句を記しなさい。

テスト区分	実技種目	斜面設定
クラウン テクニカル	パラレルターン大まわり	(①)
	パラレルターン大まわり	中急斜面・不整地
	(②)	急斜面・ナチュラル
	パラレルターン小まわり	(③)
	フリー滑走	総合斜面・ナチュラル

5. 下記斜面状況の概要を記しなさい。

ナチュラル	①
ノーマルパック	②
ハードパック	③
整地	④
不整地	⑤

6. 下記は「検定員制度の内容」について述べたものです。()に入る適切な語句を語群より選び記しなさい。

全日本スキー連盟の目的である“スキースポーツの(①)”を教育本部では「指導」と「検定」を二本柱として普及を図ってきました。スキースポーツをより幅広く、より楽しむための手段として、学ぶという指導の研鑽過程で(②)を確認していくため、また、(③)を高めるためにテストを受け、さらに(④)を図ることを目的としています。

検定の基本理念として、級別テストは、受検するスキーヤーが、自己の技術レベルを知ることによって(⑤)を実感できるテストを目標にしています。ジュニアテスト(キッズ・チルドレン)では、子供達を感じるスキーの楽しさや喜びにつながるスキーの楽しさや喜びにつながり、(⑥)や(⑦)を喚起するテストを目指しています。さらには、上級レベルのプライズテストでは、技術志向として(⑧)を目指すことを目標としています。

・自己	・挑戦意欲	・アスリート	・学習意欲	・観察力
・普及と振興	・進歩の喜び	・レベルアップ	・競技力	・運動能力
・発展	・オリンピック	・上達のプロセス	・継続意欲	

7. 下記は、「谷回り」のメカニズムである<重力による落下運動>と<二軸運動意識>について述べてものです。()内に当てはまる適切な語句を語群より選び記しなさい。

<重力による落下運動>

スキー板の滑降・回転には、重力による落下運動にその(①)な特徴がある。重力を活用する「谷回り」は、重力によるスキー板の(②)に沿う力(推進させる力)と(③)に沿う力(ターン内側に向かわせる力)から構成される。そして、「谷回り」の回転弧はその重力による落下運動のふたつの力とこれらと(④)に働く抵抗によってコントロールされる。

この場合、重力によるスキー板の縦軸に沿う力については、よく理解されていないところである。しかし、あまり理解されてこなかった重力によるスキー板の横軸に沿う力がスキー板の方向を(⑤)に(⑥)に向かわせるところに「谷回り」の真髄がある。つまり「谷回り」は、スキーヤー自信の「重さ」で滑降・回転するということであり(⑦)とは対極をなすものであると言える。

<二軸運動意識>

「谷回り」においてスキー板の向きをターン内側に変えていく力は、ターン内側の「内脚(軸)主導」によって導かれる。ターン内側の(⑧)の屈伸及び(⑨)がターン内側へ重心を移動させ、この結果起こる(⑩)によって、スキー板の滑降・回転を生起させることに「なる」。

そしてこれらを円滑に遂行するために、ターン外側の脚は、内側の脚による(⑪)への荷重を基礎に、(⑫)を前方に滑らせなければならない。このときは、ターンによって生じる遠心力が外スキーへの(⑬)を生み、「外脚(軸)主導」が機能することになる。この場合、ターンにおける外スキーの滑走距離は、内スキーよりも(⑭)なる。

これらの「谷回り」における内脚軸と外脚軸のふたつの(⑮)は、それぞれの股関節の運動を中核として、異質協働的に重要な役割を果たす事になる。

・縦軸	・谷側	・逆方向	・順方向	・抜重回旋	・根源的
・力軸	・短く	・長く	・末端主導	・体幹主導	・荷重移動
・外スキー	・横軸	・外旋	・受動的荷重	・運動軸	
・骨盤	・肩甲骨	・ダイレクト	・フェイスコントロール		
・間接的	・山側	・舵とり	・荷重回旋	・股関節	・内スキー

8. 公認スキー検定員規程に示されている<資格の停止>、<資格の喪失>の各条文を記しなさい。

9. 公認スキー指導者検定規程に示されている<公認スキー指導者検定の種類>を記しなさい。

10. 公認スキー検定員規程に示されている<検定の範囲>を記しなさい。